

2021年度(第118期)

中間株主通信

2021年4月1日—2021年9月30日

水が途切れない世界を実現する



原材料価格等の大幅な高騰という逆風下、 売上高の増加、継続的な合理化の成果などにより 当第2四半期においても黒字を確保いたしました。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、当社2021年度(第118期)第2四半期(2021年4月1日から2021年9月30日まで)
の事業概要等についてご報告させていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し
上げます。

代表取締役社長

日 下 修 一



当第2四半期の概況について

当第2四半期連結累計期間において、COVID-19の影響については、感染の急拡大により緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が全国各地で実施され、のちに感染者数が縮小したことで9月30日にこれら措置の終了となりましたが、現時点においては、当業界に大きな影響が及ぶことはなく、需要は全体としては概ね横這いが続いております。緊急事態宣言下において「安定的な水の供給」や感染対策として「手洗い」の励行が引き続き政府により要請されていることは水道の重要性が再認識されたものと考えております。一方、世界的な脱炭素に向けた動きにより、製鉄においてCO₂排出量が少ないとされる鋼屑需要の高まりやエネルギー価格の上昇による原材料価格等の高騰は、収益面に大きな影響を与え、販売価格への転嫁にタイムラグが生じていることの要因もあり、黒字幅は縮小しました。

当社はデザイン経営の一環として企業理念の体系を刷新し、新たに明文化したパーパス「水が途切れない世界を実現する」の実現のため、シナジーを期待する新規・周辺事業の拡大等による「管路分野のInnovative All in ワンストップ企業」に向けた取り組みを進めてきております。

この「管路分野のInnovative All in ワンストップ企業」とは、設計から工事施工に至る通常のDB(Design and Build)方式に、当社ならではの管路劣化診断技術として、Fracta社とのパートナーシップによるAI管路診断技術を組み合わせた形での当社独自の方式を含め、情報収集、管路劣化診断、設計、製造、販売、工事施工までのすべての管路分野のプロセスをワンストップで実現できる会社を目指すというものです。

設計・工事施工の分野につきましては、本年4月に本体組織としてエンジニアリング部を立ち上げましたが、さらに従来子会社日鉄商事(株)グループにて取得しておりました「建設業許可」について、7月30日付で、日本鉄鋼管本体においても取得すると共に、国土交通大臣への建設コンサルタント登録も完了しました。加えて、設計や工事施工に長けたJFE関連グループ会社とも連携を強化してきております。

Fracta社とのパートナーシップによるAI管路診断技術のソフト販売活動につきましては、各事業体様への地道な周知活動が奏功し、お陰様で30を超える事業体様よりFracta-AI管路診断技術の

ご利用を頂くに至っておりますが、特に中小規模の事業体での有用性が評価されており、さらなる普及活動を進めております。

また、本年5月公表の、Whole Earth Foundationとともに手掛ける、環境インフラに関するデジタル情報基盤の整備を担う活動については、8月の渋谷区を皮切りに9月でも都内3カ所(新宿区、中野区、港区)で実証実験を実施し、その実効性が確認できております。また、国土交通省の「下水道スタートアップチャレンジ」にも選定されるなど、関係各位からも関心をいただいております。国土交通省が掲げるアセットマネジメントの実現に寄与すべく、当社の事業領域であるマンホール(鉄蓋)に関わる情報収集の枠組みづくりを加速してまいります。

好評を頂いております推進工法対応の新商品オセールも着実に実績を積み上げてきております。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は以下のとおりとなっております。

売上高につきましては、第3四半期以降の案件の前倒しに加え、(株)イガラシを前期は第3四半期連結会計期間から連結の範囲に含めたこと、シナジーを期待する新規・周辺事業の拡大等の成果などにより販売量が順調に推移していることから、前年同期と比べ6億78百万円(前年同期比9.7%)増加し、76億81百万円となりました。

収益につきましては、原材料価格等の大幅な高騰という逆風下、販売価格への転嫁にタイムラグが生じていることもあり、前年同期比でのマイナスを余儀なくされましたが、売上高の増加、継続的な合理化の成果などにより、第2四半期においても何とか黒字を確保致しました。前年同期と比べ営業利益は2億12百万円(前年同期比47.6%)減少し2億33百万円、経常利益は2億22百万円(前年同期比48.0%)減少し2億41百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億77百万円(前年同期比68.3%)減少し1億28百万円と、大幅な減益となりました。原材料価格等高騰の環境下であり、自助努力だけでは吸収しきれず、やむを得ず、今般関係各位のご理解を得ながら、価格改定を進めてまいります。

引き続き、皆様のご期待に添えるような企業運営に努め、さらなる安定利益を確保するよう一層努力してまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



売上高

7,681 百万円 (前年同期比 9.7%増↑)

経常利益

241 百万円 (前年同期比 48.0%減↓)

営業利益

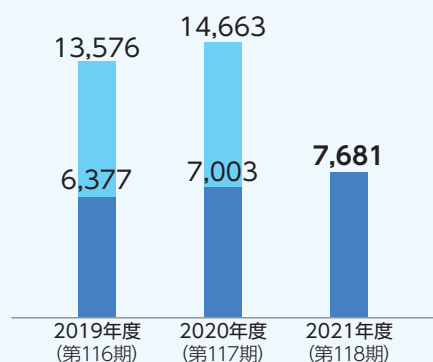
233 百万円 (前年同期比 47.6%減↓)

親会社株主に帰属する四半期純利益

128 百万円 (前年同期比 68.3%減↓)

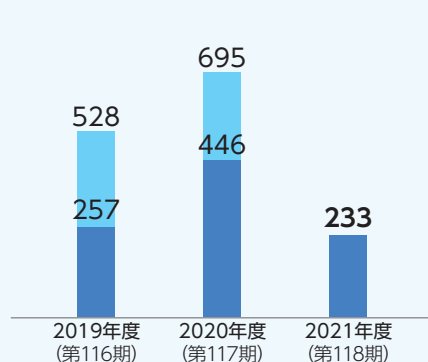
売上高 (百万円)

■ 第2四半期 ■ 通期



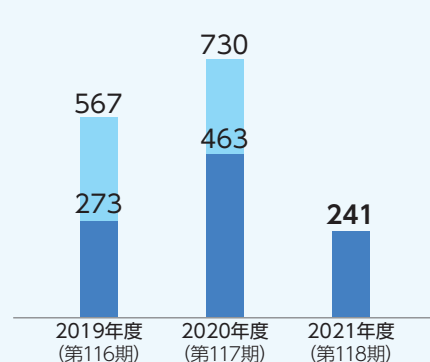
営業利益 (百万円)

■ 第2四半期 ■ 通期



経常利益 (百万円)

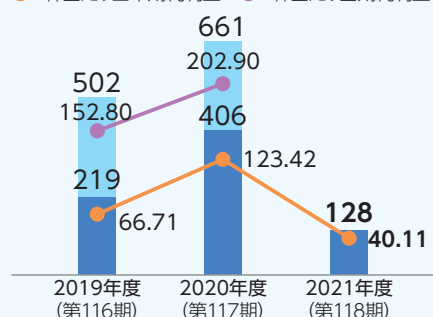
■ 第2四半期 ■ 通期



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)

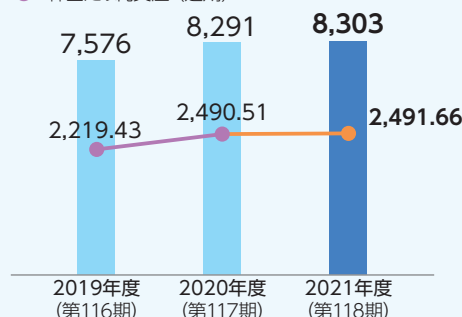
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)

■ 第2四半期 ■ 通期
 ● 1株当たり四半期純利益 ● 1株当たり当期純利益



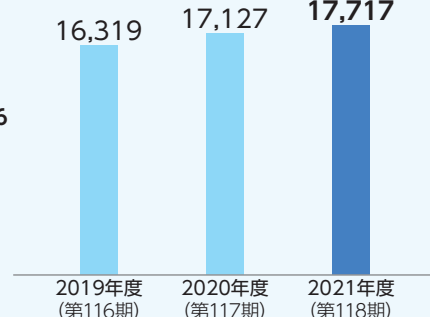
純資産 (百万円) / 1株当たり純資産 (円)

■ 第2四半期 ■ 通期
 ● 1株当たり純資産 (第2四半期)
 ● 1株当たり純資産 (通期)



総資産 (百万円)

■ 第2四半期 ■ 通期



日本鑄鉄管のGame Change への取り組み



デザイン経営の一環として理念体系を刷新

日本鑄鉄管は、デザイン経営の一環として企業の理念体系を刷新いたしました。

さらに、当社の理念体系の中に強い意志を込めるため、パーパス「水が途切れない世界を実現する」を、新たに制定しています。

Vision [最終的な企業の未来予想図]	水道管路の变革を先進し、 世界随一の水道インフラを持続させる
Philosophy [指針となる原則と信条]	誠心をもって福なる縁を広げ、 精励をもって志事を成す 生活基盤の平穏と更なる進化のため、 あらゆる技術を築き磨く
Purpose [存在意義]	水が途切れない世界を実現する
Mission [野心的目標]	水道管路の常識を覆す一步を進める
Statement [行動指針]	■ いつだって誠実に答えがある ■ すべての人を守りきり、安全を最優先する ■ 仲間をリスペクトし、信じ、共に前へ ■ どんな時も、夢をもって挑み続ける ■ ファンを増やす仕事、胸を張れる仕事を

“水が途切れない世界の実現は、簡単なようで実はとても難しい”、“上下水道の安心を守り続け、いつまでも高い質の水を人々に届けることのできる世界”。その世界の実現に貢献することが、未来永劫、日本鑄鉄管に課された使命です。

今後も当社は、社員一丸となり、水道管業界における揺るぎない地位確立を目指すとともに、水道やガスという日本国民にとってかけがえのない生活インフラを守ってまいります。

代表取締役社長 日下修一のコメント

当社は、2018年の現体制発足以来、第3の創業(第2の創業は久喜工場移転の1981年)を掲げ、事業環境の変化に適応すべく变革を推進し、大リストラとその後のV字回復を実現してまいりました。同時に周辺領域から新たな事業展開を進め、製造・販売をメインとした事業領域から、パートナーであるFracta社の技術を使った管路診断や設計、工事施工に至る事業領域までを取り扱う「管路分野のInnovative All in ワンストップ企業」を目指した企業へ舵を切り、軌道に乗りつつあります。第2の創業から40年にあたる本年、いよいよこの第3の創業活動をより加速化していくため、企業の理念体系として、内外に広く公表させていただくことといたしました。

コーポレートサイトに「ビジョン・理念」のページを掲載しております ▶ <https://www.nichu.co.jp/company/philosophy/>



TOPICS 1 コーポレートロゴのリニューアルを実施

当社は、第2の創業から40年にあたる本年、企業価値の向上と更なる飛躍を目指す象徴として、コーポレートロゴのリニューアルを行いました。デザインは、戦略パートナーであるセブンデックス社と共に考案。水道インフラの構築・永続という当社の使命、まっすぐでひたむきな社風、「ひたむきに水の流れを支える」という当社の志を表現しました。

当社のイニシャル・レターであるNの形を基調に、曲線で「水の流れ」を、直線で「支える」「ひたむきさ」をシンボライズ。インフラを支える企業として、まっすぐにお客様と向き合い続けることを、心新たに表願いたしました。これを契機に更なる企業価値向上に邁進してまいります。

Symbol
コーポレートロゴ



水の流れ 【曲線的に表現】 水の流れ、応変を表現	ひたむきに支える 【直線的に表現】 真っ直ぐに両サイドから支える表現	日本鑄鉄管(N) 【カタチで表現】 社名の頭部であるNの形状を表現
---------------------------------------	---	--

TOPICS 2 市民参加でインフラ管理をDX化

当社は、市民参加型の環境インフラ情報プラットフォームの実現を目指す民間非営利団体Whole Earth Foundationと連携。ゲームアプリ「鉄とコンクリートの守り人」を共同開発しました。同ゲームアプリの目的は国内すべてのマンホール蓋をプレイヤーが撮影・投稿し、マンホールの情報基盤の整理を行うというもの。日本全国のマンホール地図の完成が目標です。

2021年8月に行われた第1回「マンホール聖戦IN渋谷」では約700人が集まり、渋谷区内1万個のマンホールを3日間でコンプリート。10月、東京23区を対象に行われた「#マンホール聖戦～東京23区コンプ祭り～」では登録者が2万人を突破し、その延長戦を11月1～7日の日程で実施。第4回は石川県加賀市で開催されました。

今後、実証で収集したデータにAI技術を組み合わせ、マンホール劣化診断や交換スケジュールを最適化するツールを開発。インフラ管理のDXを実現するソリューションとして、上下水道局などに提供するべく、取り組んでまいります。



当社は先般、発表したパーパス「水が途切れない世界を実現する」に基づく活動として、SDGsの「6.安全な水とトイレを世界中に」を支援すべく、ウォーターエイドジャパンへの寄付を開始いたしました。同団体は清潔な水、トイレ、正しい衛生習慣を開発途上国へ届ける活動を行っています。

当社の資材納入量に応じた一定額をウォーターエイドジャパンへ寄付するほか、ウォーターエイドの教材を利用して学校等で行う出前授業実施を進めてまいります。日本の水道インフラを守り、世界における安心安全な水の維持を実現すべく、ステークホルダーである顧客の皆様も、取引を通じて寄付にご貢献いただければ幸いです。当社の取り組む、ESG経営、またSDGsの一環として、社員一体となり本活動を推進いたします。



■特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパンとは？

私たちの生活に欠かせない清潔な水、トイレ、正しい衛生習慣を届けることで、もっとも取り残されがちな人々の生活を変えることを目指す国際NGOです。現在、アジア、アフリカ、中南米など26か国で活動し、1981年の設立以来、2,810万人に清潔な水、2,880万人に適切なトイレを届けています。

会社・株式情報 (2021年9月30日現在)

■ 会社概要

会 社 名	日本鑄鉄管株式会社 NIPPON CHUTETSUKAN K.K.
設 立	1937(昭和12)年10月
本 社 所 在 地	東京都中央区築地一丁目 12 番 22 号 コンワビル
資 本 金	18億5,500万円
従 業 員 数	302名
連 結 子 会 社	日鑄商事株式会社 株式会社鶴見工材センター 日鑄サービス株式会社 株式会社イガラシ

■ 役員

代表取締役社長	日 下 修 一
取 締 役	井 澤 信 之
取 締 役	大 木 勝 裕
取 締 役	奥 村 一 郎
取 締 役	田 野 学
常 勤 監 査 役	高 舘 健 二
監 査 役	宇 田 斉
監 査 役	野 神 光 弘

(注) 1. 奥村一郎、田野 学の両氏は、社外取締役であります。
2. 宇田 斉、野神光弘の両氏は、社外監査役であります。
3. 奥村一郎、宇田 斉の両氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

■ 株式の状況

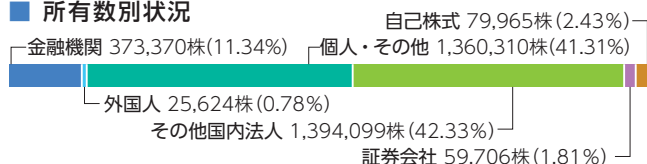
発行可能株式総数	12,800,000 株
発行済株式の総数	3,293,074 株
株 主 数	3,181 名

■ 大株主

株 主 名	持株数(株)	持株比率(%)
JFEスチール株式会社	960,000	29.88
東京瓦斯株式会社	333,333	10.37
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	246,000	7.66
松原明男	63,200	1.97
渡邊倉庫株式会社	60,000	1.87

(注) 1. 当社は自己株式(79,965 株)を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。
2. 持株比率は自己株式を控除して算出しております。

■ 所有数別状況



■ 株主メモ

事 業 年 度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定 時 株 主 総 会	6月下旬
配 当 金 受 領	期末配当 3月31日
株 主 確 定 日	中間配当 9月30日
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 0120-288-324(フリーダイヤル)
公 告 方 法	電子公告とする。但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

コーポレートサイトのご案内

当社コーポレートサイトでは、決算情報、リリースなど、最新情報を掲載しておりますので是非ご覧ください。

日本鑄鉄管 検索 <https://www.nichu.co.jp/>

